

よこはまの森

No.126

ニュースレター

横浜みどりアップ計画

森づくりを担う人材の育成事業の財源の一部に横浜みどり税を活用しています。

横浜市みどり環境局環境活動事業課 〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10
tel045-671-2624 fax045-550-4554 よこはまの森ニュースレター HP 二次元コード ⇒



道具の使い方研修を開催しました!

雨天のため室内で開催しました。現場での研修とは異なり、一つ一つの作業を丁寧に学ぶことができました。

内容の一部をみなさまに紹介します! 作業の時に意識してみてください。

～剪定ばさみの使い方～



座学の様子

指先から掌の付け根の大きさに合ったものが使いやすいです。



剪定の様子

繊維に沿わせて斜めに切ると少ない力で切ることができます。

斜めに切った後は危なくないよう、とがった枝を切り戻しましょう!



～ノコギリの使い方～

ノコギリを使うときは水平または垂直にまっすぐ切ります。安全で正確な作業のためには重要な技術です。

意外と難しい…!



水平切りの様子



垂直切りの様子

～道具の手入れ～

その日の汚れ、その日のうちに!
お湯で洗って油を塗るだけでも汚れが落ちて道具も長持ちしますよ。[オリーブオイルでもOK!]



道具の手入れの様子(砥石)

道具が整備されていると作業もはかどります。
いつも最高のコンディションに!

開催予定の研修

研修情報はここからも確認できます→



■ 安全管理研修(森づくり活動団体必須研修) 対象:森づくり活動団体

日 程: 10/22㊦(南部公園緑地事務所)、11/9㊦(北部公園緑地事務所)、11/29㊦(環境活動支援センター)

時 間: 9:30~12:00 ※いずれの日程も同内容

森づくり活動団体の年間活動の承認に必須です ※対象団体にはご案内を送付しています。

■ 森づくりボランティア入門講座/横浜市の森づくり塾! (大学生対象入門講座)

横浜市の緑地保全の取組から、ボランティア活動、森の散策、調査、森づくり体験まで行います。

日 程: 森づくりボランティア入門講座 11/15㊦ 11/23㊦ 9:30~15:30

横浜市の森づくり塾! 11/15㊦ 11/22㊦ 9:30~15:30

会 場: 新治市民の森及びいはる里山交流センター

生物多様性に配慮した循環型の森林管理

日頃より市民の森やふれあいの樹林等において緑地等の維持管理のお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

横浜市では、市民や森づくり団体と協力しながら、里山の自然を守り、生物多様性を育む「循環型の森林管理」を進めています。その取り組みをいくつかご紹介します。

里山の役割と経緯



①ノコギリクワガタ・カナブン

かつて国内でも多くのスギ、ヒノキ等の樹木やタケが建材・家具材・生活用具に活用され、クヌギ、コナラ等は薪や炭となり人々の暮らしを支えてきました。また、シイタケのほだ木にも利用されています。落葉樹の落ち葉は堆肥となり、農業生産に不可欠でした。いわゆる里山は萌芽更新等、人の手が入ることによって若返り、林内は明るく、キンラン・ギンラン等の林床植生が豊かになり、多様な動物も生息し、生物多様性の観点から大切な環境が維持されてきました。

しかし、外国産木材の輸入自由化や担い手不足により、国内木材自給率は低下しました。また、高度経済成長期に薪や炭から安く便利な石油や天然ガス等へと切り替わりました。その結果、里山は放置され、樹木は高齢・大径木化し、アズマネザサ等が繁茂して林床植生は貧相になり、生息動植物も減少しました。

一方、市民の森やふれあいの樹林では、市と愛護会や森づくり団体等の役割分担により、外来種の除伐、竹の間伐、草刈り、落ち葉かき等の活動で、多くの市内緑地が良好に保たれています。今回は市民の森やふれあいの樹林における、生物多様性に配慮した循環型森林管理の実例を紹介します。

クヌギやコナラと生きものたち

夏になるとクヌギやコナラの樹液を求めて、カブトムシやクワガタ、カナブン等が集まります。(写真①) 横浜市内でも、これらブナ科の樹木はカシノナガキクイムシの影響によりブナ科樹木萎凋病に罹患し、枯死する通称「ナラ枯れ」が確認されています。そのため、森の外周部や園路付近の樹木を中心に、被害が外部・利用者に及ぶ恐れのあるものを優先して伐採しています。

伐採木材の多くは森林内に積み置き(写真②)、時間の経過とともに腐朽菌等で分解されます。また、クワガタの幼虫のすみかとなり、餌にもなります。こうして木材は分解され土にかえります。なお、県内ナラ枯れ被害量は令和3年をピークに令和5年には減少傾向です。



②広葉樹積み置き



③落ち葉置場

落ち葉かきから生まれる腐葉土

落ち葉かきにより集められた落ち葉も工夫して堆積していただいています。(写真③) 堆積した落ち葉は、微生物、ミミズ等により分解され、腐葉土を生成します。腐葉土は、カブトムシが卵を産み、幼虫が育つ場でもあります。その他、ハサミムシやゴミムシの仲間等、様々な生物が生育しています。また、畑の土壌環境の改善に貢献しています。

粗朶柵(そださく)の役割

次に、粗朶柵(写真④)を紹介します。粗朶とは、森林から伐採や剪定により生じた枝等を束ねたものです。木杭に粗朶を編み込んだ柵が粗朶柵です。簡易的な土壌流失効果があり、将来は様々な生物に分解され土にかえります。粗朶には隙間があり、クモやコオロギの仲間等、様々な生物の生息地にもなります。



④粗朶柵

竹を使った柵と有効利用



⑤竹積み柵

粗朶柵に類似したものに、タケを用いた柵(写真⑤)があります。モウソウチクやマダケ等を伐採して作成することができます。伐採したタケを有効利用できます。このタケにドロバチの仲間が営巣することがあります。ドロバチの仲間の性格は温厚で、刺激しなければ襲撃しないと言われています。主にガの幼虫等を捕食するので、生物農薬としても注目されています。

循環する森の恵み

以上、生物多様性に配慮をした循環型の森林管理の実例を紹介しました。少しでもご参考になれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ウェルカムセンターを紹介します!

市内5カ所にあるウェルカムセンターでは、基本的な森の楽しみ方から森の魅力まで、市民が森について理解を深めるための取組を推進しています。今後、子ども向けの森のマナーアップに関する展示を各館で行う予定です。多くの人が市内の森を楽しめるような啓発に力を入れていきます!



寺家ふるさと村 四季の家



🏠 青葉区寺家町414 📞 045-962-7414



連なる里山、広がる谷戸田、森のしぼり水でできた五つの池。寺家ふるさと村には、今なお豊かな自然が残っています。ここでは、季節ごとに様々な動植物に出会うことができます。四季の家館内では、ふるさと村で見ることができる動植物の標本やパネル展示、国の天然記念物ミヤコタナゴの水槽も展示しています。また、年間を通じ、野草、野鳥、昆虫などの観察会や稲刈り体験ができる講座などを開催しています。詳しくはホームページをご覧ください。



新治里山公園 にいはる里山交流センター



🏠 緑区新治町887 📞 045-931-4947



十日市場駅から徒歩15分。広大な新治市民の森のエントランスにあたります。近隣の小学生が森や川の保全活動、農の体験学習で訪れます。幼児と保護者の方々には、身近な自然とふれあうひとときを大事にしてほしくて「にいはる自然じかん」を春・秋に開催。公園も森も、多くのボランティアの方々が活動していますので、ご関心のある方はいつでもご相談ください。



環境活動支援センター 交流スペース



🏠 保土ヶ谷区狩場213 📞 045-713-6350



横浜市のほぼ中央に位置する狩場の丘にあるウェルカムセンター。狩場の丘で見られる植物や生きものの情報、昆虫の標本等を展示しています。植物の不思議を探したり、虫とり網をもって園内を巡る観察会を催したりして、森に関わるきっかけや楽しみ方を紹介しています。



舞岡ふるさと村 虹の家



🏠 戸塚区舞岡町2832 📞 045-826-0700



地下鉄舞岡駅で下車すると里山の風景がみられます。虹の家はそこから徒歩で5分、市街地にのこった貴重な緑の中にあります。舞岡ふるさと村の森のご案内やたくさんの観察会をやっています。地域には舞岡公園もあり、農業も盛んなので地域でとれる恵みもご紹介しています。豊かな恵みのある自然の中にぜひおいでください。



横浜自然観察の森 自然観察センター



🏠 栄区上郷町1562-1 📞 045-894-7474



日本初の「自然観察の森」として、2026年3月に開園40周年を迎えます。市内最大の緑地、円海山緑地の一角にあり、「いきもののにぎわいのある森（生物多様性の保全された森）」を目指して市民ボランティアの皆さんとともに森づくりを行っています。

11/22(土)~24(月休)、29(土)~30(日)は、「秋の森おさんぽラリー」を開催!

森と生きもののつながりを探りながら、地図を片手に散策をしませんか?HPもご覧ください!